

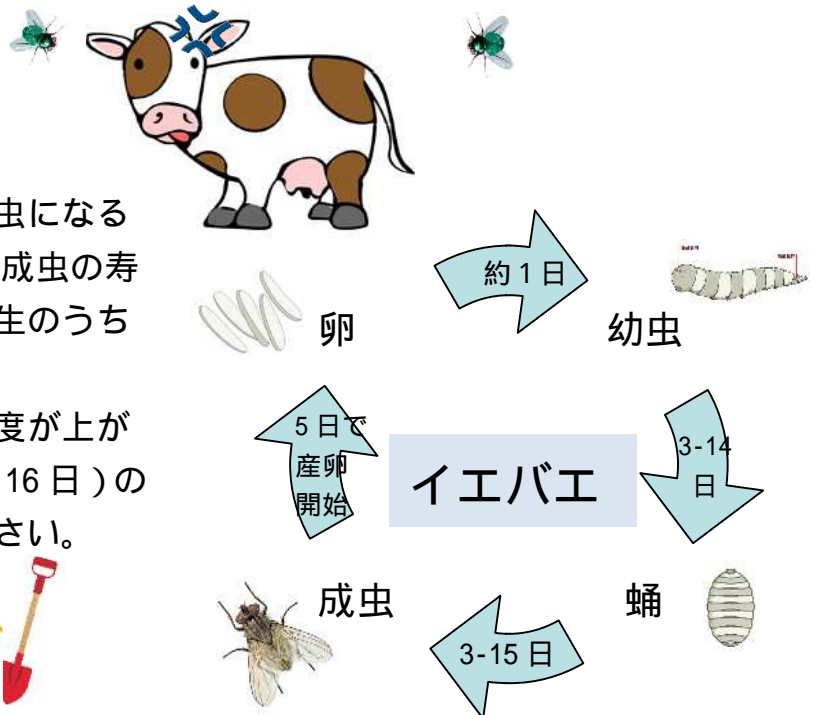
## ハエの防除対策について

秋ハエの気になる季節になりました。今年は暑さが早くに到来したせい、8月下旬頃から少し過ごしやすいい日が増えてきました。ハエの発生は、周辺住民からの苦情につながるだけでなく、家畜にとっては病気の伝播、ストレスによる生産性の低下につながりますので、大発生する前に、ハエの防除対策を再度ご確認ください！

### ハエの発生サイクル

イエバエの場合、卵から成虫になるまでに約 7 日～30 日かかり、成虫の寿命は約 3 週間です。成虫は一生のうちに約 500 個の卵を産みます。

卵から成虫になる日数は温度が上がると短くなります(25度で約 16 日)ので、早めに対策を取ってください。



### ハエの防除対策



**環境対策と薬剤による対策を両方行うことが大切です！**

まずは、環境対策でハエの発生源を除去しましょう。

発生したウジ・ハエには薬剤を適切に使用しましょう。(裏面)



### 環境対策

ハエの発生源を取り除くことで生活環を絶ち、ハエの発生をおさえましょう！

定期的な清掃：畜舎内の糞や残餌は、こまめに片付けましょう。

堆肥の定期的な切返し：ハエの卵は40度以上の温度で死滅しますので、適切な堆肥化(発酵温度60度以上で数日間)は、ハエの卵対策に有効です。

乾燥等：ハエの卵は水分 50% 以下でふ化率が低下します。産卵場になりやすい水分の多い飼料にはフタやシートをかけ、また、まめな片付けが難しい場所については、送風や消石灰等で乾燥化を心がけましょう。

## 薬剤利用

薬剤によるハエ対策は、幼虫対策が基本となり、羽化して飛び回る前の抵抗力が弱い幼虫を駆除するのが効果的です。幼虫対策には、幼虫の成長を阻害する幼虫駆除剤（IGR剤）等を使用します。

成虫の大量発生には、誘引殺虫剤（ベイト剤）や殺虫剤等を使用しましょう。ベイト剤とは殺虫成分を含むハエの餌で、薬剤の飛散・流出が少ないので、薬剤による汚染に気をつけたい場所に向いています。また、殺虫剤の直接散布は、ハエが畜舎の天井や壁などに止まっている夕方から早朝または雨天時に行い、環境対策や幼虫対策と併用することがより効果的です。

## 主な殺虫剤

主な商品名	種類	特徴	対象
ネポレックス スミラブ粒剤 シロマジン	IGR剤 (幼虫発育抑制剤)	耐性ができにくい。 効果が高く、長く持つ。人畜への毒性低い。	幼虫
ネオクレハゾール	オルソ剤	安価。臭いが強い。	
うじキラー トヨダン スミチオン ネグホン	有機リン系製剤	即効性で効果が高い。 耐性ができやすい。人畜への毒性あり。	幼虫・ 成虫
スパレン乳剤 ETB乳剤 バイオフライ	ピレスロイド系製剤	即効性で効果が高い。人畜への毒性低い。 効果が短時間しかもたない。	
ノックベイト	クロロニコチル系	耐性ができにくい。効果が高い。 人畜への毒性低い。 サシバエには効果なし	成虫
ボルホ	カーバメイト系製剤	即効性。効果が高い。 人畜への毒性がある。	

同一系統薬剤の長期使用により薬剤耐性ができることがあります。一定期間使用したら、異なる系統の薬剤に切り替えて使用しましょう。

薬剤は、取扱説明書の用法・用量・使用方法および保管上の注意を守って使用し、使用記録を残しましょう。

畜体や卵、飼料などに殺虫剤がかからないように注意するとともに、出荷に関わる制限がある薬剤は、その使用方法および休薬期間等を守りましょう。



## 神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345  
TEL : 0463-58-0152 FAX : 0463-58-5679

